



発行日 / 平成31年3月25日 発行者 / 網代和夫 編集 / あきる野市町内会・自治会連合会 広報部会

平成三十年度を顧みて

あきる野市町内会・自治会連合会
会長 網代和夫

あきる野市町内会・自治会長並びに
会員の皆様には、日頃より連合会活動
にご理解ご協力をいただき誠にありが
とうございます。

今年度は、役員改選期で半数以上の
44町内会・自治会長が替わられた年で、
新任の会長さんは未経験なことばかり
で、ご苦労されたことと思います。

各町内会・自治会の運営は、少子高
齢社会の進展や社会構造改革等で、大
きく様変わりして難しい局面が多々
あっただろうと思います。

世の中を見てみると、日本各地は多
くの自然災害に見舞われました。また、
市民生活の中では、幼児への虐待によ
る痛ましい事件等も後を絶ちませんで
した。こんな時だからこそ、御近所と
の連携が重要であり、町内会・自治会
の存在意義あると痛感します。

今年度は連合会として、地域により
身近な存在となるよう会報を広報誌と
して年4回の発行に替えました。来年
度は、課題の「必要とされる、魅力あ
る町内会・自治会」作りを、様々な取
り組みの中で見出しに行きたいと思っ
ます。これには皆様のお知恵とご協力
が不可欠です。奇しくも連合会発足20
周年となり、シンボルとなるロゴマー
クを制定することとしました。ロゴは、
安心で安全な社会実現のため、誠実と
情熱を持って取り組み、優しくしっか
りと手を携えた連合会姿勢をシンボ
リックに表現し、あきる野市町内会・
自治会連合会の新たな一ページにした
いと考えます。

親子そろって地域探訪

「地域をもっと知ろう」、市民解説員
の同行のもとに3月2日、増戸駅近く
の森の下公園に参集した親子の一行は、
瑞雲寺→山田大橋→学芸懇談会メン
バー宅→能満寺→天神様→上ノ台畑地
を巡る約二時間の地域探訪に出発した。

本企画は、連合会事業部会（部会長
田村百二）が市民解説委員会（運営委
員長吉野清治）と企画したもので、「地
域の歴史を知り、住ん
でいるところをもっと
好きになる」ことを目
的にした活動で、連合
会の新しい事業であ
り、今後が期待される。



八幡神社



能満寺



山田天神社



瑞雲寺

余瀝

日本国憲法の三大原則は国民
主権、基本的人権の尊重、平和
主義と言われます。それらの核
となっているのが個人の尊厳を
保障することだと考えられてい
ます。現在の社会で個人の尊厳
を守ることが肝要な課題として強調され
ています。▼このことは町内会・自治会
にも当てはまることだと思います。町内
会・自治会には、行政と連携して災害か
ら地域住民を守ることを始め、住民がよ
り住みやすい地域社会を構築すること、
住んでよかったと思えるような温かい連
帯感のある地域社会づくり等多くの役割
や任務があります。その中で基本となる
ことは一人一人の会員の尊厳を大切に
し、それを保障するために地域環境を少
しでもよくし、もてる人間としての能力
を発揮できる地域社会づくりをすること
だと思えます。▼老若男女それぞれが
様々な困難を抱えて暮らしています。そ
の困難を地域社会が少しでも住民全体の
問題と捉えなおして取り組んでゆくこと
がとりもなおさず町内会・自治会の目的
に合致した活動になります。▼高齢者や
児童の見守り活動、夜間パトロール、防
災訓練、美化活動、道路整備等行政への
要請、地域の伝統文化を守り発展させる
活動、親睦を図るための様々な行事、こ
れらは一人一人の個人の尊厳を大切に思
わなければできないことばかりです。こ
うして町内会・自治会も憲法の精神であ
る個人の尊厳を守ることに寄与してい
るのだと思えます。

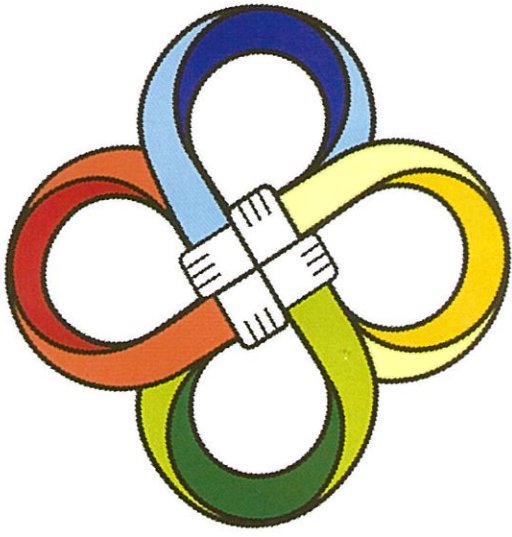
連合会ロゴマークを決定

連合会はかねて募集していた連合会のシンボルマークとしてのロゴマークを決定しました。

図案の作成者は上引町内会の近江ゆかりさんです。

「秋川の流れをイメージして作りました」とのこと、川の流れのように地域の皆様の繋がりが途絶えることなく、手と手を取り合い、どんな時でも有難う、お互い様、と言える心根を大切にしていたきたい、「赤は情熱、青は誠実、黄色は幸福、緑は安心（優しさ）」を表現しているとのこと。

尚、本作品は応募された7名19点の中から優秀作品として選考されたもので、高瀬町内会の小林勝郎様、牛沼町内会の中村儒一様の作品も佳作として選考されました。審査に携わった総務部会（担当 成田）は「審査は大変でしたが、たくさんの作品をいただき感謝している」とのことでした。



連合会視察研修を実施

平成31年2月19日（火）、立川防災館で、地震、応急救護、救出救助の体験を受けた後、立川市の大山自治会講堂にて前大山自治会長、現相談役の佐藤良子先生の講演を受けました。

大山自治会は「人をたすけ、人に助けられる自治会でありたい」を運営理念として掲げ、自治会加入率100%を維持している。

佐藤先生は先ず「地域の宝を発掘すること、特に能力や技術のある会員を人材バンクとして登録し、工夫とアイデアで自治会を運営する、そうすることで改善が進む」とのこと、有料駐車場の運営や公園の委託管理、手芸品の販売等ビジネスにも力を入れている。

自治会を運営するためには、自治会役員が「五気力」（元気・陽気・根気・強気・やる気）を失わないよう心掛けること、「住み続けたくなる地域づくりが自治会の究極の目標である」との話に参加者55名の多くが感動を受けました。



大山自治会の佐藤先生

地域の組

折立町内会の文化祭

折立町内会ではあきる野市のコミュニティ事業交付金をいただき2015年から3年間町内会文化祭を開催してきました。

秋のよき日に2日間、絵画・書道・写真・陶芸・手芸・絵手紙教室・生け花・茶の湯等作品展示部門と大正琴・ギター・クラリネット・ハワイアンバンド・フラダンス・民族舞踊・あきる野市の神社仏閣や偉人達の講演等舞台部門、昔遊びや豚汁のこともコーナー、菊花展、農産物即売を催しました。

2018年度は自前で、1日でしたが、ほぼ同じ内容で実施しました。

ローカルな文化の発信を各地で行ってゆくことがそれぞれの郷土の独自性や多様性を再認識しアイデンティティを確立する上でも大切だと考えます。出品者出演者の皆様が、同じ地域に暮らす皆様の鑑賞者として迎え、作品や芸能を発表し、交流し、刺激しあうことは地域の文化力の向上、活性化、連帯感の醸成、人間性の新たな発見につながると思います。老若男女が集い、地域全体や世代間の交流ができることも喜ばしいことです。

作品や技能の発表の場の確保の意義と町内の方の未知の才能を知る喜び、旧知の方に久しぶりに会える楽しみもあります。

来年度もぜひ実施したいと考えております。



舞台を観賞

自主防災活動発表会

あきる野市防災・安心地域委員会（本部長 大久保春彦）は2月9日（土）秋川ふれあいセンターで自主防災活動発表会を開催した。

発表したのは、網代自治会、雨間町内会、牛沼町内会、菅生町内会、戸倉東部自治会、中村自治会、養沢自治会の7自主防災会で、それぞれ違った側面から防災活動への取り組みが発表された。



編集後記

平成最後の新年が明け慌ただしく三ヶ月が過ぎ、三十九年度が終わる。

今回の表題は、『温ねようふるさと育てよう 地域の絆』。3月2日に

「親子そろって地域探訪」を増戸地区で実施した。参加した子供たちから「地元にはいろいろな歴史があることに驚いた。」「地元の歴史興味を持ちたいと思った。」などの感想があった。子どもたちには、先人たちの偉業を学び、郷土愛を育むことを望む。『温故知新』

広報部会 青木